



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 223

2015/04/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. マルハナバチと外来種問題

02. 美しい色の名前



今月の一枚



Photo

「春一番をつげるスミレ」

表紙写真・文／城坂結実

雪解けとともに、花を咲かせるエゾアオイ
スミレ。美幌町では春一番に咲くスミレの仲
間です。まだ草の生えない地際に咲く、蛍光
色のように鮮やかな紫色の花は、春の訪れを
華やかにつげてくれます。

葉や茎に毛が多く、触るとフワフワするの
で、識別がしやすいスミレの仲間だと思いま
す。春の林の中を歩きながら、探してみてく
ださい。

Event. 今月のイベント

企画展「せせらぎ公園 絵の花散歩道」 ～5月31日(日)

プチ工房「モダンテクニックであそぼう！」 4月9日(木), 16日(木)

国際博物館の日 記念行事 4月25日(土)

企画展記念観察会「せせらぎ公園 花さんぽ」 4月25日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房 「モダンテクニックであそぼう！」

● 4/9(木), 16(木) 10:00 - 12:00, 14:00 - 16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費 (150円), エプロンまたはスモック (汚れてもよいもの) ●福田春美 (美幌博物館) ●申込み不要

国際博物館の日 記念行事

● 4/25(土) 9:30 - 17:00 ※ 10:00 - 12:00, 13:00 - 17:00 担当学芸員がそれぞれの場所で随時解説を行います。ただし、企画展の展示解説は 14:00 - 15:00 のみ。●美幌博物館 ●無料 ●美幌博物館スタッフ ●申し込み不要。企画展で展示している、草花のスケッチをプリントした記念ハガキをお一人様1枚プレゼントします。(なくなり次第終了)

企画展 記念観察会「せせらぎ公園 花さんぽ」

● 4/25(土) 10:00 - 12:00 ●せせらぎ公園 (美幌町青山) ※集合・解散はびほろ霊園駐車場 ●保険代 (100円), 野外で活動できる服装、雨具 ●城坂結実 (美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み (4/1 - 4/22)。キャンセルは4/22(水)まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は小学4年生から一般、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員12名で締切。荒天の場合は博物館内で企画展の解説を行います。

今月の休館日

● ●
6日, 13日
20日, 27日
30日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

マルハナバチと 外来種問題

写真・文／城坂結実



1992年、作物の授粉のためにヨーロッパから北海道に導入され、外来種として有名になったセイヨウオオマルハナバチ。マルハナバチの仲間は北海道に12種類いますが「マルハナバチを知っていますか？」と尋ねて、今、最も名前が挙がるのはセイヨウオオマルハナバチでしょう。

美幌町で初めてセイヨウオオマルハナバチが確認されたのは、2006年です。それから今日まで、住宅地を中心にセイヨウオオマルハナバチの分布は広がっています。自宅のお庭や道ばたで、お尻が白くてブンブンと大きな羽音をたてるハチを、みなさんも目にしたことがあるのではないのでしょうか。

このセイヨウオオマルハナバチ、ただ飛んでいるだけならよいのですが、もともと北海道にいるマルハナバチの仲間と、餌（花の蜜）や巣をめぐる競争することが知られています。

そんなマルハナバチの間で起こる餌の奪い合いと、それによって起こる問題について、6月6日（土）の第1回 博物館講座で、富山大学の石井博准教授よりお話していただきます。餌の奪い合いとは、どのようにして起こるのか！？北海道にいるマルハナバチの仲間にとって、外来種はどのような影響をもたらすのか！？また、マルハナバチにつくといわれている寄生虫と、それによって起こる不思議な現象についても、聞くことができるかもしれません。乞うご期待！！

今年度は、これまで行っていた自然講座、歴史講座に、美術分野を加えた「博物館講座」を12回開催いたします。様々な分野で、美幌博物館をお楽しみください。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

美しい 色の名前

写真・文／福田春美



春の陽射しが感じられる今日この頃。ある日、外にいと、一つの物体が目の前を飛ばたいてゆきました。聞くと、それはカワラヒワという鳥。まだ雪の残る景色をバックに、その羽の黄色はとても鮮やかでした。

そういえば、と思い出したことは色の名前についてです。鶺鴒色(ひわいろ)という色名があるのをご存知でしょうか。世の中にはさまざまな「色」がありますが、この鶺鴒色のような日本の伝統色と呼ばれるものからは、自然に対する日本人の細やかな感性が伝わってきます。季節ごとに彩りを変え、目を楽しませてくれる自然界の色彩は、身近にありながら深い感動を与えてくれるものだったに違いありません。

例えば、植物から名前をとったものでは、山吹色や藤色、紅梅色など。また、草木の芽吹きを思い浮かべる萌黄色(もえぎいろ)や、その逆の枯草色(か

れくさいろ)といった名前もあります。動物でイメージしやすいのは、鶯色(うぐいすいろ)や鶺鴒色(ときいろ)などでしょうか。鼠色(ねずみいろ)に関しては種類が多く、その色味によって桜鼠(さくらねず)、銀鼠(ぎんねず)、黄鼠(きねず)などさまざまなバリエーションがあります。

動物達が動き出し、自然が一気に色づくこれからの季節、美しい景色を目に焼き付けて、ふと見かけた色に自分で名前をつけてみるのも面白いかもしれません。

ちなみに、鶺鴒色は明るい黄緑色を指します。鳥の図鑑で調べてみると、その色は私が見たカワラヒワではなくマヒワの色に近いようでした。ほかにベニヒワもおり、鶺鴒にもいろいろいるのだなあ、と鳥の勉強にもなったひとときなのでした。(※写真は日本画に用いる岩絵の具と水干絵の具です。)

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員^補 のつぶやき



博物館に来て半年が経ちました。とちの実を拾い集めた秋、ウサギの足跡を見つけた冬を経て、これから巡る春や夏にはどんな出会いがあるのか、とてもワクワクしています。雪が解けたら、自転車に乗って春を見つけに行きたいです。(久山 あらため 福田)